

## アジア長期教育統計 DB

### <概略>

2012年11月

**目的:** アジア各国の人的資本に関連するデータを推計し、既存の代表的なデータセットと比べてより長期的かつ正確で詳細な国レベルの年次パネルデータを作成する。また、そのデータセットを教育のマクロ経済的な役割に関する分析の基礎情報とする。

**DB 作成者:** 神門善久 (明治学院大学経済学部、研究分担者)

**対象:** 日本、韓国、アメリカ合衆国、台湾

**対象期間:** 日本: 1870年から2000年  
韓国: 1920年から1942年、1955年から2000年  
アメリカ合衆国: 1890年から2000年  
台湾: 1888年から1940年、1947年から2000年

**変数:** 対象期間における各国の平均就学年数 (全体・年齢グループ別・学校種別・男女別)、GDP (1990年ドル換算)、有形資本 (1990年ドル換算)、人口、労働人口、労働者1人当たりの1週間の労働時間の推計値

**主なデータソース:** 日本: 国勢調査、学校基本調査、海原(1988)、日本教育史資料  
韓国: 国勢調査、教育統計年鑑、朝鮮学校統計、朝鮮統計年鑑  
アメリカ合衆国: 国勢調査  
台湾: 中華民國臺閩地區人口統計、中国教育統計年鑑

**今後の調査・作業予定:** ・教育のマクロ経済的な役割に関する実証分析  
・フィリピン・タイに関するパネルデータの作成

### これまでの主要なファインディング:

- ・平均就学年数の代表的なデータセットである Barro and Lee (2010)、Kim and Lau (1995) and Nehru および Swanson and Dubey (1995)が戦後の数十年しかカバーしていないことに対し、本データセットは対象国の約100年のデータをカバーしている。
- ・既存の代表的なデータセットには含まれない詳細な情報 (年齢グループ別平均就学年数・学校種別平均就学年数・男女別平均就学年数) が本データセットには含まれている。
- ・既存のデータセットにはさまざまな不自然な点がある。たとえば Barro and Lee (2010)の推計では、日本の1960年から1975年にかけての平均就学年数とアメリカ合衆国の

1970年から1995年にかけての平均就学年数がほぼ一定であり、韓国の1965年から1970年にかけての平均就学年数が減少している点などである。一方、本データセットはオリジナルのデータソースに依拠した緻密な推計がなされているため、既存のデータセットよりも正確さが保証される。

・20世紀初頭には、アメリカの平均就学年数は日本や韓国、台湾より高かったが、20世紀の間にその差は縮小を続けており、今後さらに縮小することが予想される。つまり、就学率（就学年齢人口（6歳から20歳）に対する就学者数）を人的資本への投資、平均就学年数（生産年齢人口（15歳から64歳）の1人当たり平均教育年数）を人的資本の蓄積と捉えると、各国で20世紀の間に人的資本への投資が拡大し、人的資本の蓄積が進んだといえる。

・Nehru, Swanson and Dubey (1995)およびBarro and Lee (2010)は元の全体の就学者数から留年者数を除いた「純」就学者数を推計に用いているが、Kim and Lau (1995)および本データセットでは、それらも含めた「総」就学者数を推計に用いている。

・学校教育は、科学知識や思考力を培うという機能のみならず、行動様式の規律を形成するという機能も果たす。

#### 参考文献:

Barro, R. and J. Lee. (2010) "A New Data Set of Educational Attainment in the World, 1950-2000," *NBER Working Paper* 15902.

Kim, J., and L. J. Lau. (1995) "The Role of Human Capital in the Economic Growth of the East Asian Newly Industrialized Countries," *Asia-Pacific Economic Review*, 1:3, 3-22.

Nehru, V., E. Swanson, and A. Dubey. (1995) "A New Database on Human Capital Stock in Developing and Industrial Countries: Sources, Methodology and Results," *Journal of Development Economics*, 46, 379-401.

海原徹 (1988) 『近世の学校と教育』 思文閣出版。